

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
安心・安全で質の高い食産業の構築			
・担い手不足に対応した農業・水産業の効率的な産業構造の構築		関係機関との連携強化により担い手を育成すべき	【資料3 - 1及び3 - 2:7頁】 ・食産業の土台となる第1次産業の持続的な発展が重要であるが、「担い手不足」が第1次産業にとって深刻な問題となっている。「担い手不足」に対応するため、関係機関などとの連携を強化しつつ、他地域などからの新たな担い手の取り込みのほか、法人化などによる経営の効率化を図り、持続可能な産業構造を目指す。
・自然環境と調和した持続可能な産業構造の構築		自然環境の保全、管理と活用を両立させる必要	【資料3 - 1及び3 - 2:7～8頁】 ・地域の恵まれた自然環境を享受した安全・安心で質の高い「食」の生産は、地域のみならず全国・全道の消費者にとっても重要であり、自然環境と調和した産業振興を図るため、資源循環型の産業の確立を目指す。 ・地域における森林は有力な資源であると同時に自然環境を構成する重要な要素であることから、まちや川、海とのつながりといった視点から、その保全と活用を図る。 ・安全・安心で質の高い「食」の提供など食産業と観光産業との連携を強め、域内での消費・生産活動の増加などにより域内循環をさらに活発化させ、域内循環型経済の構築を図る。
・豊かな自然環境を享受した安全・安心な「食」の生産	安全性の追求や他産業との連携などによる高付加価値化の推進が必要	安全・安心に加え、「本物」や「健康」といった視点にも着目すべき 安全・安心な「食」の生産を持続可能なものとするため、環境の保全や資源を「守る・活かす」ことにも配慮すべき	【資料3 - 1及び3 - 2:8頁】 ・豊かな自然環境を活かした安全・安心な「食」をより確固としたものとするため、引き続きHACCPの推進など、生産、製造、流通面での取り組みを強化する。 ・安全・安心で質の高い「食」など地域の強みを将来に渡っても利活用するため、環境保全に加え、資源を枯渇させることなく「守る・活かす」取り組みを推進する。
・食の高付加価値化・ブランド化の推進	他地域にはない地域性を活かした食産業の構築が必要 地域ブランド力の向上が必要 安全性の追求や他産業との連携などによる高付加価値化の推進が必要(再掲)	各種ニーズへの対応など、消費拡大に向けた取り組みが必要 ブランド化に向けては、他地域との差別化や情報発信力などが問われる	【資料3 - 1及び3 - 2:8頁】 ・最終的には高付加価値化につなげる「地域ブランド」を育成するため、第1次産業による安全・安心で質の高い食(素材)の生産に加え、消費者ニーズを十分に捉えた加工、販売を促進させ、これらが連携した食産業の構築を目指す。 ・「地域ブランド」を実現させるためには他地域との差別化を図る必要があることから、安全・安心で質の高い「食」や自然環境など釧路・根室地域の有する強みを、「本物」や「健康」といった視点にも着目して積極的に情報発信していく。
・輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実		骨格道路の整備を進める必要	【資料3 - 1及び3 - 2:8頁】 ・スケソウダラなどについては物流アクセスの改善により韓国への輸出が活発化しているといった事例もあるが、海外、特に東アジアへの販路拡大の取り組みを促進する。こうした取り組みを支援するため、物流の効率化など道外・海外を視野に入れた物流、輸送システムを構築する。

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興			
・環境との調和や産業活動との連携した観光メニューの提供	<p style="color: red;">移出産業としての観光産業の役割強化が必要 地域独自の資源による観光産業の推進が必要 自然を育て、活用するなど自然と共生した観光振興が必要</p>	<p style="color: red;">自然環境や特産品などの地域特性を活かした観光振興を図るべき 地域にある資源や産業の融合を図るべき</p>	<p>【資料3 - 1及び3 - 2:9頁】</p> <p>・観光産業の振興に向けては、「ここでしか体験できない」自然環境や産業活動、特産品などの地域特性を活かしていくことが他の地域との差別化を図る上で重要な取り組みとなることから、各種資源や農水産業のグリーンツーリズム・マリンツーリズム等の振興や食品加工など地域産業との融合をこれまで以上に図る。</p> <p>・恵まれた自然環境を観光資源として活用していく上で、その利用と環境負荷がトレードオフのような関係にあることなど環境の保護と利用に最大限配慮し、自然環境と観光産業の共生を図る。</p>
・安全・安心な食をはじめとした他産業との連携	<p style="color: red;">食産業と観光産業を中心にした複合的なシナリオづくりが必要</p>	<p style="color: red;">地域の食材を「地元」で提供できるように産業の融和を図るべき</p>	<p>【資料3 - 1:9～10頁、資料3 - 2:10頁】</p> <p>・地域の特色であり、資源でもある自然環境や景観、安全・安心で質の高い地元食材などを活かし、「ここでしか味わえないもの」など新たな観光の発掘や高付加価値化により地域内循環を活性化させる。</p>
・国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供	<p style="color: red;">新たな観光の発掘や楽しみ方を提案していく必要 地域と一体となった情報提供を図る必要 観光の国際化の推進とユニバーサルデザイン化が必要</p>	<p style="color: red;">食などの活用に加え、「癒し」や「安全」などの側面にも配慮すべき リピーターの誘致に注力すべき</p>	<p>【資料3 - 1及び3 - 2:10頁】</p> <p>・各種資源の活用に加え、例えば観光ニーズとして高まっている「癒し」などのサービス向上と同時に、ツアーの安全性確保などに配慮する。</p> <p>・個人観光客に「ここでしか体験できない」自然環境や産業活動などの体験の提供と、阿寒湖温泉のガイドなど海外観光客に対する地元人材も活かした通訳など各種観光サービスの提供などによる地域の「もてなし」・総合力により、地域の魅力の向上を図り、交流人口、特にリピーターの増加を目指す。</p> <p>・エコツアーなどの個人観光を振興するため多様な情報媒体を通じた観光情報の提供を推進する。</p>
・広域的連携による観光産業の振興		<p style="color: red;">観光地間の連携を図るべき</p>	<p>【資料3 - 1及び3 - 2:10～11頁】</p> <p>・観光客の収容能力と国立公園など既に観光スポットとなっている場所の分布や、増加している海外観光客や個人観光客などの観光ニーズ・旅行形態の多様化を踏まえ、それぞれの地域が集団観光と個人観光のどちらに重点的に取り組むかなど戦略を立て、釧路・根室地域の中で役割分担と連携を図る。</p> <p>・主要観光スポット間の移動に時間がかかるなど北海道、釧路・根室地域の広域性に対応した観光産業の振興を図るため、交通アクセスの定時性・高速性を確保する。</p> <p>・また、例えば自動車による移動を念頭に置いた景観の活用や休憩施設の整備のほか、空港を起点としたレンタカーによる実際の訪問順路に基づいた各観光地における連携した取り組みを強化する。</p>

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
住みたくなる地域・生活環境の充実			
・雇用機会の創出		産業振興などによる雇用機会の創出を図るべき 安定した雇用の場確保に向けた企業誘致を行うべき	【資料3 - 1及び3 - 2:12頁】 ・高付加価値化や観光との連携、ブランド化などを推進し、基幹産業である農業や水産業などの持続的な発展を通じ、地域での安定した雇用の機会を創出する。
・利便性を確保するためのアクセス機能の向上	「継続的に住みたい」と思えるような地域づくりが必要	高齢者の移動手段を確保、充実すべき 生活基盤拡充のための交通アクセス改善を図るべき	【資料3 - 1及び3 - 2:12～13頁】 ・今後の生活基盤の確保、拡充のため、物流に加え、特に高齢者などの視点に立った交通アクセスの改善を図る。 ・地域医療を考える場合には、医療機能の集積、充実といった側面のほか、分散する居住地を念頭に置いた通院・救急搬送等の所要時間の短縮を図る。
・豊かな自然を享受できる地域づくり		環境保全と利便性を両立させる必要	【資料3 - 1及び3 - 2:13頁】 ・釧路市が実施したアンケート調査結果からも明らかなように、地域住民にとって誇るべきものは「自然環境」であり、なおかつ住み続ける理由の上位にも挙げられている。このため、釧路湿原における「釧路湿原自然再生協議会」等による自然再生や、厚岸道立自然公園・周辺地域の国定公園化など、行政機関、地域住民、NPO等が連携した自然環境を保全する取り組みと、それを享受できる地域づくりを推進する。
・地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり		防災対策に加え、災害時の地域連携やライフラインの確保が必要	【資料3 - 1及び3 - 2:13頁】 ・生活基盤の安定的な確保のため、雌阿寒岳の火山噴火、地震・津波、豪雨・豪雪などに対する防災、減災機能の向上ほか、福祉、教育などのサービスを維持するための交通アクセス機能の定時性、高速性を確保する。 ・災害発生時のための情報ネットワークの確立といった地域連携を強化するとともに、バックアップ機能の充実などライフラインの確保に向けた事前対応を充実させる。
・北方領土との交流など国際交流の促進		第5期計画や今後の交流展開などに根ざした返還活動を推進すべき 経済活動を見据えた多様な取り組みを展開すべき	【資料3 - 1及び3 - 2:13頁】 ・釧路・根室地域は、北方領土からの引揚者である元島民や関係者が数多く居住する地域であり、「ビザ無し交流」や「北方四島自由訪問」等において根室港が渡航拠点として位置付けられていることから、その交流拡大や拠点機能の強化を図る。 ・北方領土の経済活動を見据えた多様な取り組みを展開するほか、「第5期北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画」や今後の交流展開などにしっかりと根ざした返還活動を推進する。

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
東アジアなどとの関係の強化			
<p>・海外などの需要に応えられる生産・輸送システムの構築</p>		<p>釧路空港などの機能充実を図るべき</p>	<p>【資料3 - 1及び3 - 2:14頁】 ・十勝・網走地域も含めた地域経済に密接に関係している釧路港からの輸出入は、他の主要港に比べ荷役などの物流機能の面で十分でないとの指摘もある。このため、釧路港の物流機能を更に充実させ、シャケやホタテ、生ダコ、スケソウダラなどの道外・海外市場の需要に応えられる競争力を付け、中国や韓国といった東アジアなどとの関係の強化を図る。 ・航空便による国際観光振興や物流機能なども重要であることから、鮮度が求められる水産品の移輸出など、釧路空港のゲートウェイ機能の強化を図る。</p>
<p>・民間レベルにおけるビジネス交流の促進</p>			<p>【資料3 - 1及び3 - 2:15頁】 ・安全・安心で質の高い食品や加工品の地域内循環を促進するとともに、引き続き関東圏などの道外マーケットにおける販売強化を図る。また、鮮度の高い生ダコやシャケなど、東アジア地域をはじめとした海外における質の高い食品に対するニーズが高いことから、民間レベルでのビジネス交流を促進する。</p>
<p>・観光などの交流強化と地域ホスピタリティの醸成</p>	<p>物流に加え、観光など人的交流の促進 ユニバーサルデザインなどの地域ホスピタリティの醸成が必要 観光の国際化の推進とユニバーサルデザイン化が必要(再掲)</p>		<p>【資料3 - 1及び3 - 2:15頁】 ・ビジネス交流を促進する際、観光なども含めた人的交流を進めるとともに、これら交流を下支えする地域ホスピタリティの醸成を図る。 ・海外からの観光を促進するため、東アジアなどとの文化交流を強化するほか、道の駅等での各種情報提供の充実や標識の多言語表示やカーナビゲーションシステムの複数言語対応、言語に依存しないマップコードによる誘導など、ソフト面の充実も図る。</p>

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
地域を支える基盤づくり			
・他地域も含めた役割分担と広域連携の推進	釧路を中心とした「役割分担」と「連携」の構築が必要	生活環境の整備などは、各市町村が有する機能、役割を明確にした上で、積極的に連携を図ることも必要	【資料3 - 1及び3 - 2:16～17頁】 ・人口減少下においては、釧路・根室地域の各市町村が有する機能、役割を明確にした上で、それぞれが足りない部分を補完すべく連携を進める。 ・必要となる機能全てを地域内でまかなうことは困難であることから、近隣のオホーツクや十勝、あるいは道央圏や道外などで充実している機能を有機的に取り込むなど、地域内とその他の地域も含めた広域連携を推進する。
・大学などの機能の活用と地域を支える人材の育成	地域の人的資源や技術の利活用による新たな産業の創出が必要	人材育成に加え、外部人材の導入、活用やそのための新産業育成なども必要	【資料3 - 1及び3 - 2:17頁】 ・地域にある人的資源の充実、人材育成はもちろんのこと、外部人材の導入、活用なども重要であることから、既存産業だけでなく、これら人材を活用した新たな産業の育成などにも取り組む。 ・高付加価値化やブランド化を推進するためには、各種技術やノウハウなども積極的に地域に蓄積・活用していく必要があることから、そのための環境整備や実際にビジネスで活かす「仕組み」を構築するほか、大学など研究機能の活用を図る。
・域内循環型経済の促進		「地域ブランド」の地元における支持強化を図るべき	【資料3 - 1及び3 - 2:17頁】 ・域内での生産、流通、消費は、地域経済に対する貢献が極めて大きいことから、「地域ブランド」の定着による地元産品の活用、消費を拡大し、域内循環の活発化を図る。
・情報システムの確保によるユビキタスの実現	広域的な情報共有化の実現を図るべき	情報化における地域格差解消のため、ブロードバンドなどIT化を推進すべき	【資料3 - 1及び3 - 2:17頁】 ・地域内循環などを促進させる先進的な取り組みや、各地域の持つ強みを連携した新たな産業・ビジネスの創造を推進することに加え、情報化における地域格差解消のためのブロードバンド化やユビキタスなど情報基盤の充実を目指す。
・地域構造を念頭に置いた交通基盤整備	地域特性を引き出す社会資本とすべき	中心市街地の活性化を図るべき 自然環境や景観などに配慮した交通基盤整備を行うべき	【資料3 - 1及び3 - 2:17頁】 ・「集中と選択」を効率的に実現させるため、道路網を中心とした交通アクセスの改善による移動時間の短縮を図るほか、観光など社会資本が持つ多様な機能の発揮や、地域住民、利用者など多様な主体が参画する新たな視点からの取り組みを推進する。 ・交通基盤整備は、地域の自然環境や景観などに加え、釧路市などの中心市街地活性化にも充分配慮して進め、特に都市部の魅力を効率的に集約して、活性化などの相乗効果も期待されるコンパクトシティの実現なども念頭に置いて進める。
・既存社会資本の効率的な維持・管理と有効活用の推進			【資料3 - 1及び3 - 2:17頁】 ・「集中と選択」の視点から、新たな整備が必要な社会資本と既存の社会資本を効果的に連携させ、既存の社会資本の効率的な維持・管理や社会情勢の変化などに対応した弾力的な利活用など社会資本の利用最適化と有効活用を図る。
・企業や民間など協働体制の推進			【資料3 - 1:17頁、資料3 - 2:18頁】 ・将来像の実現に向け、ハード的施策とソフト的施策を効果的に連携させるとともに、行政、民間企業、地域住民などが協働した取り組みを推進する。

釧路・根室地域の現状と目指す将来像（変更箇所一覧表）

具体的な方向	第2回委員会 論点整理	PI意見 論点整理	地域の目指す将来像の変更事項
・その他	地域の独自性を出した「将来像」を描くべき	各地域におけるモデルプランを提示する必要	<p>「地域の独自性を出した「将来像」を描くべき」については、「豊かな自然を享受できる地域づくり」や「北方領土との交流など国際交流の促進」等の記述を充実させた。</p> <p>「各地におけるモデルプランを提示する必要」については、今後提示する予定。</p>